

2013年度第4回 サロン2002 理事会報告

(理事会後の動向は「→」で表記)

【日 時】2014年1月17日(金) 18:30~20:30 (その後も話は続く)

【場 所】新横浜駅ビル、麒麟シティ

【出席者(理事)】

笹原勉、嶋崎雅規、中塚義実、本多克己 注) 岸卓巨・高田敏志の各理事は、出席理事に委任

【議事録作成】中塚義実

議題1：サロン2002 法人化に対する会員の反応

1月5日の関西サロンを含め、会員から得たコメントなどを紹介しあつた。

◆多くの会員は、通信等に目を通せていないのではないか

ある会員から得た、「送られてくる情報が多すぎて目を通せていない」という意見が、多くの会員の状況を反映していると言える。反対意見はあるが、大部分は「よくわからない」状態であると考えられる。だから1月13日付で理事長から会員宛に「メッセージ」を配信した。よく読めばわかるはずだし、第2部がよくできていたが、これらが一度に送られてきたこともあって、読むのが面倒になって目を通せていない人が多いのではないか。

これは「会員向けの設立趣旨書」のつもりで書いたものであり、これ以上改めてつくるつもりはないが、提出用の「設立趣旨書」はA4判1枚程度で必要。ここにコンパクトにまとめ、会員にも読んでもらう必要がある。週末に作成し、理事会で回覧する。

→ 回覧し、一部修正したものを会員に送信。

◆「法人化したからといって大きく変わるわけではない」ことを伝えるべき

「法人化するとどう変わるのか」について、会員の危惧があるようだ。関西サロンで出てきた懸念も同様。基本的に、サロン2002が取り組むことは変わらない。「ゆるやかなつながり」であることも変わらない。変わるとすれば、「(社会的な)責任が大きくなる」ということだけ。

このような認識を、理事長だけでなく、理事ほか「みえている」人たちから、ML等を通して配信していくべき。

議題2：法人化後のすがた(定款、予算書等の検討)

定款案、予算書案の、保留となっている部分を中心に議論した。

◆会費と寄付金

認定NPOとなることを視野に入れ「3,000円の寄付を100人から集める」ことを想定する立場から、「サロン会員の会費を寄付金扱いにするかどうか」という議論が始まっている。

しかし認定NPOを目指すのはあくまでも次の段階の話であつて、いまこの段階でその議論をすると、かえって話がややこしくなる。

よつて、サロン会員の会費は「会費」として扱う(寄付金ではない)。コア会員も賛助団体も同様。会費以上の入金については「寄付金」扱いとする。これは従来どおり。

◆会費の金額設定

コア会員の会費は 10,000 円。「コア会員が 50～60 人いるだろう」との見込みは楽観的すぎる。実際は 20～30 人かもしれないので、予算は 20 人で立てる。

サロン会員の会費は当初 3,000 円としていたが、「事務局機能を強化することが必要」とのメッセージを込めて、この機会に、従来より 1,000 円アップの 4,000 円としたい。これには、もともと「一口 2,000 円で二口以上」としていた会費を一律 3,000 円としたあたりからお金が回らなくなってきたことの反省もある。

賛助団体の会費は 30,000 円。ただしこれは会費であり、広告費ではない。公開シンポジウム報告書等に広告を掲載する場合は、別途広告費をいただくことになる。

◆会員種別と議決権

コア会員が議決権を持つ。サロン会員と賛助団体は、総会に出席して意見を述べることはできるが議決権は持たないということを、定款に記載する（記載方法については要検討）。

◆事務所

いくつかの候補があったが、現時点で決め手となるところがない。杉並区にある小池正通氏のオフィスは有力候補で、小池氏には電話で打診して内諾を得ている。引き続き、他の事務所候補（渋谷区・墨田区に候補地あり）の可能性を探りつつ調整する。会員からの提案にも期待したい。

ただし常駐の事務局員を置くことができない段階。高額の事務所代を捻出することはできない。

◆社員のうち 10 名以上の名簿

NPO の社員が 10 名以上いることを確認するもの。10 名以上の「コア会員＝社員」を記載する。

ちなみに「コア会員」になったからといって、従来と事務作業量は変わらない（事務局は別）。しかし責任は大きくなるだろう（何かあったとき）。

まずは、「理事・監事」と呼ぶようになった 2004 年度以降の理事・監事 16 名と、法人化プロジェクトで定款作成を担当した小池正通氏に、名簿掲載の可否を確認する。

- ・ 2013～14 年度理事：中塚義実、岸卓巨、笹原勉、嶋崎雅規、高田敏志、本多克己
- ・ それ以前の理事・監事（50 音順）：麻生征宏、阿部博一、安藤裕一、宇都宮徹壺、斎藤健司、高橋義雄、田中俊也、徳田仁、仲澤眞、宮明透、
- ・ 法人化プロジェクトより：小池正通

		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	担当	2013
理事	理事長	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実	統括	中塚義実
	副理事長	本多克己	本多克己	本多克己	徳田 仁	徳田 仁	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	企画：月例会／法人化	笹原 勉
	理事	笹原勉	笹原勉	徳田 仁	本多克己	本多克己	田中俊也	田中俊也	田中俊也	田中俊也	広報：ホームページ	本多克己
		田中俊也	田中俊也	田中俊也	田中俊也	田中俊也	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	企画：公開シンポジウム	高田敏志
		安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	阿部博一	阿部博一	嶋崎雅規	嶋崎雅規	企画：月例会	嶋崎雅規
	宇都宮徹壺	宇都宮徹壺	宇都宮徹壺	麻生征宏	麻生征宏	高橋義雄	高橋義雄	宮明透	宮明透	C.F.O.	岸 卓巨	
監事	監事	高橋義雄	高橋義雄	高橋義雄	齋藤健司	齋藤健司	齋藤健司	齋藤健司	笹原 勉	笹原 勉	—	仲澤 眞

→ 1 月 24 日時点で、「社員のうち 10 名以上の名簿」に名前を載せてよいとの返事をいただいたのは、笹原勉、本多克己、嶋崎雅規、岸卓巨、仲澤眞、安藤裕一、田中俊也、小池正通、中塚義実の 9 名。辞退連絡は宮明透、高田敏志、高橋義雄の 3 名。いずれも「サロン会員」を選択される模様。名簿に名前だけ記載されている方は、現時点で未確認。

→ この名簿への掲載を希望される方を現会員から広く募集する。すべてのコア会員を掲載する必要はないが、掲載希望には応じる（多い分にはかまわない）。

<参考：2000～2003 の役員>

		2000	2001	2002	2003
役員	代表者	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実
	代表代行幹事	高橋義雄	高橋義雄	笹原勉	本多克己
	幹事	鈴木崇正	鈴木崇正	本多克己	笹原勉
		仲澤眞	仲澤眞	内田正人	内田正人
		長岡茂	長岡茂	長岡茂	長岡茂
		堀美和子	堀美和子	宇都宮徹吾	宇都宮徹吾
	監査役	笹原勉	笹原勉	仲澤眞	仲澤眞
	会計兼名簿	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕
	ML管理人	涌田龍治	涌田龍治	涌田龍治	涌田龍治
	HP担当	本多克己	本多克己	本多・津田綾女	本多・津田綾女

◆役員名簿

現役員の任期は2013～2014年度。現在の任意団体サロン2002は発展的に解散するのだから、改めて役員を選出するべきで、役員候補者選任規定の見直しも必要かもしれない。

これらはNPO法人サロン2002ができあがってから形を整えていくものとし、設立当初の役員には現在の理事・監事の名前を入れ、定款の附則に記しておきたい。

→ NPO設立時の理事は“現”サロン2002理事が担うことにしていたが、“現”理事の高田敏志氏はコア会員にはならないので、高田氏を除いた5名を「理事会案」とする。

◆予算書・事業計画書

新規事業で150万円の収入を確保する案になっていたが、初年度は難しいだろう。よってその部分を50万とし、他の出費を削って修正案を作成した。月例会報告書制作費は、5,000円から10,000円に上げている。

議題3：今後の進め方について

今後の進め方について確認した。

◆理事会 2014年1月17日 18:30～20:30 於新横浜

- ・理事会報告及び諸文書を、1月20日に理事長から各理事に配信、内容確認。
- ・週末(1/24)には会員向けに「総会案内」を配信。そこには総会の主要議題である法人化関係の資料も添付する。原案となるが、総会までは修正の余地はある。会員からのご意見をいただきたい。
- ・会員は、総会への出欠連絡をする(総会当日まで有効だが、2/15頃までに連絡がほしい。理事会提案に対する意見も同様)。

◆総会 2014年2月23日：15:00～17:00 筑波大附属高校

- ・通常総会。これが現サロン2002解散総会であり、特定非営利活動法人サロン2002の設立を決定する総会となる。

注) 公開シンポジウムが総会時点で終わっていないため、2013年度決算案、2013年度事業報告案は「案」のみであり、確定はできない。

- ・提案が可決されたら、特定非営利活動法人サロン2002の設立手続きに入る(2/24の週で申請書類を提出。2ヵ月縦覧、最大4ヵ月審査)。
- ・同法人の2014年度会員募集を開始する。その際、コア会員かサロン会員か、あるいは賛助団体かを明記し、速やかに入金するものとする。

- ◆公開シンポジウム 2014年3月30日：13：00～17：00 於筑波大学東京キャンパス
- ・「スポーツクラブの法人化」をテーマに公開シンポジウムを行う。2013年度最後の事業。

◆総会 2014年5～6月

- ・任意団体サロン2002の、2013年度の決算、事業報告。NPOサロン2002のスタート総会となる。
(認証通知が届いた後の方がよいのでは?)

◆認証・登記

- ・6月中旬までに認証(or不認証)の通知がある予定。認証書が届いたら主たる事務所所在地の法務局で法人登記し、登記後遅滞なく「設立登記完了届出書」を提出。→完了

議題4：公開シンポジウム2013について(3月30日)

会場は、筑波大学東京キャンパスを確保済み(1時間2,000円程度)。

メインテーマは「スポーツクラブの法人化」。かつて(1990年代末～2000年代初頭)日本クラブユース連盟で「21世紀型スポーツクラブシンポジウム」を毎年開いていたが、この頃言っていたのが「チーム→クラブ→法人化」という流れであった。

今回のシンポジウムでは、いくつかの事例を通して、スポーツクラブの成長過程をみていきたい。なぜいまこのテーマなのかというと、もちろんサロン2002の法人化があるからだが、広くクラブ育成に関わる人たちに来てもらいたい。

演者は現在打診中だが、2名は確定。

- ・賀川浩氏…神戸FC(日本初の社団法人クラブ)の事例
 - ・水上博司氏(日本大学/元サロン会員)…クラブネットのあゆみと認定NPO取得にまつわる苦労
この他、ラグビーの事例として北海道バーバリアンズのGMに依頼する(嶋崎理事が打診)。ラグビー関連の行事はこの日はないので、ラグビー関係者の参加が見込まれる。旅費がかかるが、その分、集客の努力をして、赤字にならないように努力する。
- 北海道バーバリアンズの平島英治氏に打診したがクラブの納会と重なりNG。改めてNPO法人みなとラグビースクール理事長・校長の黒崎祐一氏に打診したところOK。3名の演者が確定した(1/23)

◆事業としての公開シンポジウムについて

- ・「誰に、何を」伝えるのかを明確化することが必要。独立採算事業として不可欠。
- ・法人化後は、会員のメリットの一つとして、参加費に差をつけてもよいのではないかとの意見が出た。公開シンポジウムの参加費は2,000円(総会でかつて議決されたはずだが、いまも1,000円で開かれている)、ただし会員および学生は1,000円とするなど。今後要検討。

おまけ：理事会の二次会

電車の都合で本多氏が20：30ごろ、新幹線乗り場へ向かった。それをもって理事会は終了。

引き続き笹原・嶋崎・中塚で二次会となり(最初から理事長は「二次会を始めます」と言っていた疑惑あり)、密度の濃い会話を楽しんだ。

終了は22：00過ぎ。嶋崎は徒歩で帰宅、笹原も近所。中塚とはいつもと立場が逆である。

ときどき月例会を横浜で開催するのもいいかなと思った。

以上(文責：中塚義実)